

問1 4世紀から7世紀頃、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住み、須恵器の製作技術や漢字、仏教などを伝えた人々を何と呼ぶか。（2023年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 渡来人 2. 遣隋使 3. 防人 4. 御家人

問2 西ローマ帝国が滅亡した476年ごろから、遣隋使が派遣される607年ごろまでの期間における、日本列島と周辺地域の交流の様子を説明したのとして最も適切なものはどれか。（2026年 高知公立入試 類似）

1. 朝鮮半島の戦乱を避けて移住してきた人々が、養蚕や機織り、文字などの技術を伝えた。 2. シルクロードを経由して西アジアの文化が直接日本の庶民の生活に浸透した。 3. 対馬などの沿岸部を拠点とする集団が、食料や人々を奪うために大陸沿岸を襲撃した。 4. 朝鮮半島の国家から将軍の代替わりごとに公式な使節団が派遣され、儒教の交流が行われた。

問3 5世紀のヤマト王権の王たちが中国の皇帝に使節を送り、国内の支配権を認めさせていた時期の文化について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2024年 三重公立入試 類似）

1. 古墳の頂上や周囲に埴輪が並べられ、王の権威の高さや葬儀の様子を表現した。 2. 魔除けや安産を願う呪術的な道具として、土偶が盛んに作られて集落の近くに置かれた。 3. 仏教の伝来にともない、大規模な寺院の建立とともに数多くの仏像が安置された。 4. 稲作の豊作を祈るための祭礼の道具として、青銅で作られた銅鐸が用いられた。

問4 3世紀後半から6世紀にかけて、北は東北地方から南は九州地方まで、日本列島の広範囲にわたって鍵穴のような独特な形をした巨大な墓が築造されました。このような墓が各地に共通して造られた背景として、当時の政治状況を説明したのとして最も適切なものはどれですか。（2026年 沖縄公立入試 類似）

1. ヤマト王権に従った各地の豪族が、王権との結びつきを周囲に示すとともに、自らの権力を誇示するために築造を認められた。 2. 大陸から渡来した人々が、最新の土木技術を日本各地の民衆に広めるための記念碑として、公共事業の一環で築造した。 3. 大和地方の人口が急激に増加したため、有力な豪族が新天地を求めて東北や九州へ集団移住した際の住居の跡地である。 4. 仏教の伝来とともに、日本全国の豪族が共通の宗教儀礼を行うための寺院の土台として、同じ形状で設計された。

問5 世界文化遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群に含まれ、5世紀頃に築造された日本最大の前方後円墳として知られる、当時のヤマト政権の強大な勢力を象徴する古墳はどれか。（2020年 鳥取公立入試 類似）

1. 大仙古墳（伝徳天皇陵） 2. 箸墓古墳 3. 高松塚古墳 4. 稲荷山古墳

問6 古墳時代に大陸からの渡来人がもたらした技術や文化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれか。

（2024年 鳥取公立入試 類似）

1. 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。 2. 木製農具や石包丁を用いた水田稲作とともに、赤褐色で薄手の土器が広まった。 3. 仏教が伝来し、寺院の屋根を飾るための瓦を焼く技術が初めて日本列島に導入された。 4. 表面に縄目の文様を施し、食料を煮炊きするための厚手の土器が各地で作られた。

問7 古墳時代における渡来人の活動と、日本社会に与えた影響について述べた文として、正しいものはどれかを選びなさい。（2021年

和歌山公立入試 類似）

1. 朝鮮半島から移住し、漢字や仏教の伝来、須恵器などの陶質土器の製作技術を日本に伝えた。 2. 九州北部の防衛のために東国から派遣され、唐や新羅による侵攻に備えて沿岸を警備した。 3. 中国の優れた制度や文化を吸収するために日本から派遣され、小野妹子らがその代表である。 4. 平安時代に地方の政治が乱れる中、自らの土地を守るために武装し、後の武士の源流となった。

問8 4世紀から5世紀にかけて、近畿地方を中心に誕生した「前方が方形で後方が円形」という特徴を持つ巨大な墳墓が、九州から東北地方まで広く分布するようになった歴史的背景について述べたものとして、最も適切な説明を選択してください。（2019年

富山県公立入試 類似）

1. ヤマト王権の支配力や政治的影響力が、近畿地方から日本各地へと拡大したため 2. 仏教の伝来によって、全国の豪族が共通の形式で墓を作る宗教的義務を負ったため 3. 大陸から渡来した人々が、自分たちの故郷で一般的だった墓の形を全国に広めたため 4. 各地の豪族が、ヤマト王権に対抗するために独自に巨大な墳墓を築くことを競い合ったため

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 渡来人	大陸での争乱を避けるために日本に移り住んだ、あるいは大和政権に招かれた人々を指します。彼らは土木、養蚕、機織り、金属加工などの高度な技術のほか、漢字や仏教、儒教といった思想・文化をもたらし、日本が国家としての形を整える上で重要な役割を果たしました。
問2	<b>答え 1</b> 朝鮮半島の戦乱を避けて移住してきた人々が、養蚕や機織り、文字などの技術を伝えた。	この時期、朝鮮半島での戦乱を背景に多くの人々が日本列島へ渡り、大和政権の国づくりに協力しました。彼らが伝えた技術は、灌漑施設などの大規模な土木工事や鉄器の製作、機織りなど多岐にわたり、古代日本の社会構造を大きく変える要因となりました。選択肢にある倭寇（海賊行為）は中世以降、朝鮮通信使（公式使節）は江戸時代の出来事であり、時代背景が異なります。
問3	<b>答え 1</b> 古墳の頂上や周囲に埴輪が並べられ、王の権威の高さや葬儀の様子を表現した。	5世紀は「倭の五王」が中国の南朝へ使いを送り、政治的な地位を確立しようとした時代です。この時期の古墳には、円筒埴輪だけでなく、冢、武器、人物などをかたどった形象埴輪が並べられ、葬られた者の権威や儀式の様子を示す役割を果たしていました。土偶は縄文時代、銅鐸は弥生時代、寺院建立は飛鳥時代以降の特徴であるため、混同に注意が必要です。
問4	<b>答え 1</b> ヤマト王権に従った各地の豪族が、王権との結びつきを周囲に示すとともに、自らの権力を誇示するために築造を認められた。	前方後円墳という特定の形状が日本各地に広がった事実は、当時のヤマト王権を中心とした政治的な連合が広範囲に及んでいたことを示しています。各地の有力な豪族は、ヤマト王権の支配体制に組み込まれることで、その象徴である前方後円墳を築く許可を得て、自身の支配権を正当化しました。渡来人の技術は築造に関わっていますが、目的は公共事業ではありません。また、古墳は住居ではなく墓であり、仏教伝来以前の文化です。
問5	<b>答え 1</b> 大仙古墳（伝仁徳天皇陵）	大阪府にある大仙古墳は、5世紀のヤマト政権の最盛期に築かれた日本最大の古墳です。これほど巨大な墳墓を築造できたことは、当時の政権が朝鮮半島から確保した鉄製工具を用い、大規模な土木作業を指揮できるほどの強大な権力を持っていたことを物語っています。
問6	<b>答え 1</b> 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。	4世紀から5世紀にかけて、大陸や朝鮮半島から多くの渡来人が移住し、新しい技術を日本列島に伝えました。彼らは金属器の加工や織物の技術とともに、密閉された穴窯で焼成する須恵器の技術をもたらしました。この技術により、従来の土器よりも高い強度を持つ器の生産が可能となりました。他の選択肢は縄文時代、弥生時代、または飛鳥時代以降の出来事です。
問7	<b>答え 1</b> 朝鮮半島から移住し、漢字や仏教の伝来、須恵器などの陶質土器の製作技術を日本に伝えた。	当時の日本にはなかった高度な知識や技術を持っていた人々に関する記述です。彼らが伝えた「須恵器」は、従来の土師器よりも高温で焼かれた硬い陶質土器であり、生活様式の変化をもたらしました。また、文字（漢字）の導入により、行政や外交などの記録が可能になり、大和政権の組織化が促進されました。
問8	<b>答え 1</b> ヤマト王権の支配力や政治的な影響力が、近畿地方から日本各地へと拡大したため	同一形式の巨大な墳墓が広範囲に分布している事実は、中央のヤマト王権と地方の豪族との間に、身分秩序を伴う政治的な結びつきがあったことを示しています。ヤマト王権が各地の豪族を自らの支配体制に組み込んでいく過程で、王権の権威の象徴であるこの形式の古墳が各地で築かれるようになりました。